



これからの学びをつくっていくために—OECD 国際フォーラムからの報告第 1 弾

先月行われた **OECD 国際フォーラム** で、テーマであった「**これからの新しい学習、そして教育のありかた**」について話し合った内容の報告です。これからの学びのありかたを考える材料となればと思います。



★★話しあった主なテーマ★★

- ・わたしたちはどのような学びを優先すべきか？
- ・学校や教師を支援するために何ができるか？
- ・教師は、学習者はどのように変わる必要があるか？
- ・どのような学びが自立性を促進できるか？

★★話し合った内容の紹介（第 1 弾）★★

ここでは、概要をまとめるのではなく、グループごとの記録を紹介することで、それぞれのグループの話し合った内容で心にとどめられた言葉や文脈を共有する機会としたいと思います。

グループ I（グループ名は便宜的に紹介順に I ~ 番号をつけました。いくつかの班を紹介していきます。また、以下の内容は、話し合った内容を記録者の先生がメモして下さった内容なので、メモから意味を類推する必要もあろうかと思えます。わかりづらいところは、一部編集させていただきました。また、非認知能力の定義はいろいろですので、これに規定されることでないことをお伝えします。

★★グループ I からの報告★★

○非認知能力：学力では出ないもの。粘り強さなど、人間力的なもの。

○非認知能力をはぐくむにはどうしたらいいか。

■学習面

- ・自分の好きなこと・興味あることを優先すべき。それはより深い学びになる。将来の夢につながる。
- ・自分の得意から学ぶことが、苦手なことから学ぶよりも、自信につながる。
- ・苦手な勉強も必要なので、そのためには、少しできたことの体験を大事に、先生が配慮するのがいい。
- ・考える機会、発言する機会が少ないので、自分の意見をよりよく伝える場がある。
- ・少人数制など。
- ・教科など選べるようにする。

- ・ AIが進む中で、学びたくなる気持ちを維持、支えるのも大切。
- ・ 大人と子どもがともに考える・話せる場所がある。

■学びの動機付けについて

- ・ 苦手な教科をどのように克服するかが課題・意欲づけ（～できそうと思えるように）
- ・ リアルな思いを体験してこそ学びたくなる・（それが）動機づけ（になる）
- その先に人がいる→話したい人との出会いが学びたい動機になる（地域活動など）

☆学びの必要感を高める

- ・ 本人に任せよう・本人が最終（を）選ぶ、学ぶ
- ・ （例えば）数学を学ぶのではなく、数学で非認知能力を学べる、が理想
（生徒の実践例）ある学校では、数学の問題で難しい時は、自由に動いていい時間がある→友達に聞くこと・新たな友達の視点に気づく・交流する、わかる人に教えに行く→お互いに埋めあうことができる
- ・ 自由に動いていいよ、と言われるだけで、開放感、意欲になる
- ・ （生徒の意見）答にたどり着かなかった時の過程が大事、あきらめない力が身につくと思う。
- ・ 生徒は、歴史は、暗記科目と認識している子も多い。先生は、余談など伝える時間がないので、暗記を促す教え方になる。
- ・ ある生徒の歴史の授業の素敵なお例→初めの20分は、先生のスライド→そのあとにグループでスライドを作るらしいが、これがすごく楽しいとのこと。
→興味をもって調べられる、細かく調べたくなる、考えて調べる力になる。
- ・ 知識を与えられているだけではなく、少しできる喜び、学びの灯を教師は、つける。
- ・ 先生と生徒の対話でみんなで考えていくことが大切。
- ・ 大人が目的・ねらいを決めすぎないことも大切。→オープンエンドにして子供に任せるとも必要かも。

○エージェンシーについて

- ・ エージェンシーは育てるものなのか、引き出すものなのか・・・。
- ・ エージェンシーは、特定の積極的な人だけではなく、それ以外の消極的な人も踏まえてそれぞれがエージェンシーを発揮できるように、教師はサポートすべきだろう。
- ・ 生徒に選択する時間をたくさんつくろうとしている。例：英語の本読みの教材を自由に選んでもらっている。
- ・ 先生が一方向的に決めたことの実践をして、それを振り返るだけではだめ→自分で企画してこそ、振り返りが生きる。
- ・ 生徒にすべて渡すだけではなく。
- ・ 授業でエージェンシーの発揮を入れるのが、誰もが体験できる機会になる。

■自主的な時間について

- ・ 何をやってもいい時間は、かえって難しい。自由時間＝勉強しておいたらいいのかな。「家でもできるのに、と思いながら・・・。」
- ・ 勉強しないといけないと生徒に感じさせているのでは、よくない。いい子ちゃんを育てるべきではない。→自由な時間を渡す＝自由な学びにつながるわけではない！
- ・ 「やってみたい」があればAARサイクル（見通しを持つ 実行する 振り返る）が発達する。

☆☆内容から、本校での取り組み、Aタイムについても話し合われていたようです。このように、本校の生徒も含めた高校生と研究者、教育関係者がともに話し合った内容に触れることで、これからの教育のありかたを考える機会にして新しい日常につなげていきたいところです。話し合いの内容紹介は次号以降に続きます。気長に待っててください。（▽▽）

（SAH統括室 中村 理恵）